

第100回令和7年度全日本盲学校教育研究大会・東京大会

文部科学大臣

あべ 俊子

本日ここに、第100回令和7年度全日本盲学校教育研究大会が開催されることに對し、心からお喜び申し上げます。

主催者であります全日本盲学校教育研究会並びに全国盲学校長会におかれましては、日頃より、視覚に障害のある子供たちへの指導や、教材・教具の研究等を通じて、視覚障害教育の研究推進と向上のために御尽力いただいておりますことに對し、敬意を表するとともに、本大会の開催に御尽力いただきました関係の皆様我心から感謝申し上げます。

本大会は、大正10年の第1回開催から歴史と伝統を積み重ねられ、今回で第100回を迎えられます。記念すべき大会の研究主題は『「これからの盲学校の在り方を描く」～全日盲研100年目の節目に～』だとお聞きしております。全国の視覚障害教育関係者等が一堂に会し、専門性の向上やこれからの時代を見据えた教育支援のあり方等、様々な課題について協議がなされるものと存じます。御参会の皆様の活発な御議論が今後の視覚障害教育の一層の充実に資するものとなることを期待しております。

さて、文部科学省におきましては、障害のある子供一人一人の自立と社会参加を見据えて、その時点での教育的ニーズに最も的確に應える指導や支援を提供できるよう、様々な取組を推進しております。

具体的には、拡大教科書や音声教材等の普及促進、高校段階における点字・拡大教科書に係る購入費の支援及び特別支援教育支援員配置に係る財政措置など、視覚障害のある児童生徒の学習環境の整備・充実に努めているところです。また、GIGAスクール構想に伴い、一人一台端末の利活用のための入出力支援装置の整備も進めており、障害のある児童生徒一人一人にとって最適な学習環境づくりにも取り組んでおります。

さらに、読書バリアフリーの取組を推進するため、令和7年3月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（第二期）を策定しました。厚生労働省や国立国会図書館等と連携し、基本計画を着実に進め、視覚に障害のある方等が読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けるための環境整備を推進して参ります。

加えて、現在、中央教育審議会において、次期学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、その中で、インクルーシブ教育システムの充実に向け、合理的配慮の提供を含む、障害のある子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた質の高い特別支援教育の在り方をどのように考えるか、専門的な観点から御審議いただくこととしております。

文部科学省としましては、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、認め合える共生社会の形成を目指して特別支援教育の一層の充実に図って参りますので、皆様におかれましても、引き続きの御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会が実り多きものとなりますよう期待するとともに、全日本盲学校教育研究会並びに全国盲学校長会の一層の御発展と、本日御参会の皆様のますますの御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。